

事業番号 2022 - 文科 - 21 - 0000

令和4年度行政事業レビューシート ( 文部科学省 )

事業名	オーストラリア科学奨学生の派遣 (隔年実施事業)			担当部局	総合教育政策局		作成責任者					
事業開始年度	昭和43年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	国際教育課		国際教育課長 石田 善顕					
会計区分	一般会計											
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	・「第3期教育振興基本計画」平成30年6月15日閣議決定 ・教育再生実行会議「これからの大学教育等の在り方について(第三次提言)」平成25年5月28日 ・「『日本再興戦略』改訂2015-未来への投資・生産性革命-」平成27年6月30日閣議決定							
主要政策・施策	子ども・若者育成支援			主要経費	その他の事項経費							
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	科学分野等に興味のある日本の高校生を対象に、高校生段階における国際交流を通じて、広い視野を持って異文化を理解し、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく態度を育成し、国際的に活躍できるグローバル人材となるための機運を醸成する。											
事業概要 (5行程度以内。別添可)	ノーベル賞クラスの一線級の科学者から最新の科学知識に関する講義を受け、他国からの参加高校生との交流を深めることを目的とした、シドニー大学内物理学財団が主催する「高校生のための国際科学学校」事業の派遣高校生(オーストラリア科学奨学生)を文部科学省が決定し、当該派遣に要する旅費を支給する。(隔年実施)											
実施方法	直接実施											
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	令和元年度	1.3	令和2年度	-	令和3年度	-	令和4年度	-	令和5年度要求	2.5
		補正予算	令和元年度	-	令和2年度	-	令和3年度	-	令和4年度	-	令和5年度要求	-
		前年度から繰越し	令和元年度	-	令和2年度	-	令和3年度	-	令和4年度	-	令和5年度要求	-
		翌年度へ繰越し	令和元年度	-	令和2年度	-	令和3年度	-	令和4年度	-	令和5年度要求	-
		予備費等	令和元年度	-	令和2年度	-	令和3年度	-	令和4年度	-	令和5年度要求	-
		計	令和元年度	1.3	令和2年度	0	令和3年度	0	令和4年度	0	令和5年度要求	2.5
	執行額	令和元年度	1.2	令和2年度	0	令和3年度	0	令和4年度	-	令和5年度要求	-	
	執行率 (%)	令和元年度	92%	令和2年度	-	令和3年度	-	令和4年度	-	令和5年度要求	-	
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	令和元年度	92%	令和2年度	-	令和3年度	-	令和4年度	-	令和5年度要求	-		
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由								
	教員等派遣旅費	-	2.2									
	庁費	-	0.3									
	計	-	2.5									
活動内容 (アクティビティ)	ハリーメッセル国際科学学校へ奨学生を派遣する											
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込			
	ハリーメッセル国際科学学校へ奨学生を派遣する	ハリーメッセル国際科学学校へのオーストラリア科学奨学生等の派遣数	活動実績	人	10	-	-	-	-			
			当初見込み	人	10	-	-	-	-			
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込				
	旅費支給額 / 派遣人数			単位当たり コスト	円	119,713	-	-				
				計算式	円 / 人	1,197,130/10	-	-				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度			
	オーストラリア科学奨学生として派遣された生徒が100%理系又は国際関係学部に進学する	オーストラリア科学奨学生として派遣された生徒の理系又は国際関係学部への進学率 ※元年度実績については、大学進学する学年ではない生徒が含まれているため「-」と表記している。	成果実績	%	-	-	-	-	-			
			目標値	%	100	100	-	-	-			
			達成度	%	-	-	-	-	-			

根拠として用いた統計・データ名(出典)		参加学生の進路状況を各学校より聴取。			
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載				チェック	
政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策評価	政策	13 豊かな国際社会の構築に資する国際交流・協力の推進		
		施策	13-1 国際交流の推進	政策評価書 URL 該当箇所	
	新経済・財政再生計画改革工程表	取組事項	分野:	-	-
			(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:	-	-
		該当箇所	-	-	
事業所管部局による点検・改善					
		項目	評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性		事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は、科学分野等に興味のある日本の高校生を対象に世界トップレベルの人材及び知識に触れる刺激的な機会を確保することで、国際的に活躍できるグローバル人材となるための機運を醸成する。	
		地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	他国からの参加高校生との交流を深めることを目的とした高校生交流の推進のため、国が事業を行う必要がある。	
		政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	国際化が著しく進展する現代においては、広い視野をもって異文化を理解し、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々と共に生きていく態度の育成が必要である。	
事業の効率性		競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-		
		一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無		
		競争性のない随意契約となったものはないか。	無		
		受益者との負担関係は妥当であるか。	○	派遣するための経費(旅費)や講義用テキスト代等について、シドニー大学内物理学財団と分担して費用負担している。	
		単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	「高校生のための国際科学学校」事業へ派遣するための経費(旅費)という必要最低限の経費について補助しているため、水準は妥当である。	
		資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	研究の最前線に立つ科学者から最新の科学知識に関する講義を受け、他国から参加の高校生との交流を深めることを目的とした「高校生のための国際科学学校」事業へ派遣するための経費(旅費)であり、真に必要なものに限定している。	
		不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-		
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	-		

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	オーストラリア科学奨学生に派遣した生徒の中で既に大学に進学した者のうち、多数が理系又は国際関係学部に進学することができているので、実績は目標に見合ったものである。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-	-
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	当初の見込み通りに事業を実施できているため、実績は目標に見合ったものである。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-	-
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-	-
	事業番号		事業名	
点検・改善結果	点検結果	本事業は、研究の最前線に立つ科学者から最新の科学知識に関する講義を受け、他国から参加する高校生との交流を深めることを目的とした事業であり、派遣のための必要最低限の経費で実施しているものである。		
	改善の方向性	今後も限られた予算の範囲内で、最大限の効果が得られるよう、適切な事業実施に努める。		
外部有識者の所見				
-				
行政事業レビュー推進チームの所見				
-				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況				
-				
備考				
-				

関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成23年度	0020					
平成24年度	0144					
平成25年度	0422					
平成26年度	0421					
平成27年度	0413					
平成28年度	0395					
平成29年度	0403					
平成30年度	407					
令和元年度	文部科学省 - 0400					
令和2年度	文部科学省 0401					
令和3年度						
※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。						
<b>資金の流れ</b> (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)						
<b>費目・用途</b> (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A.			B.		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	計		0	計		0
計		0	計		0	
費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載				チェック		

